

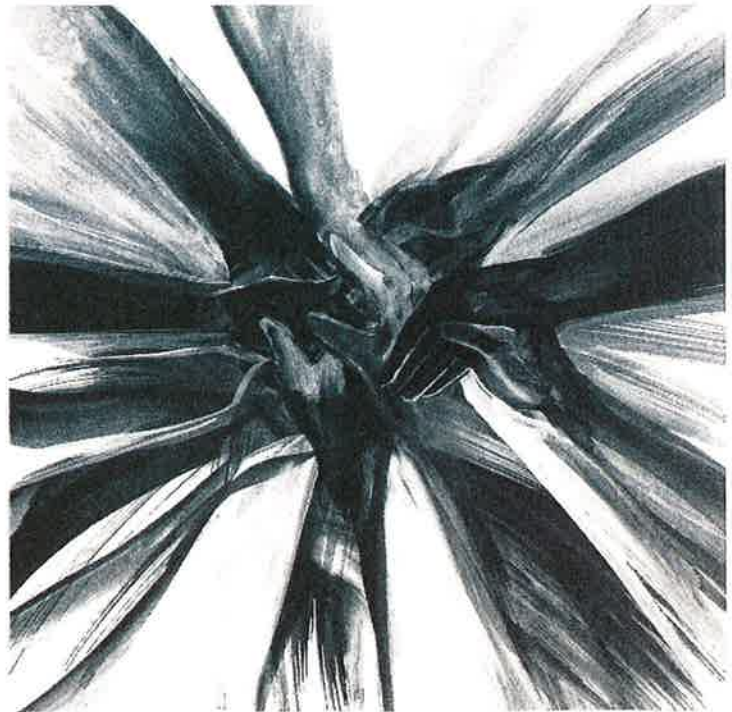
外交の思考停止を抜けて

毎日新聞
2011年(平成23年)6月8日(水)

世界の鼓動

田中 均

たのか、白馬にまたがり鮮やかな赤の礼服に身を包む儀仗兵のバッキンガム宮殿前での行進が印象的だった。英国は、伝統を守りつつ、絶えず新しい血を入れようとする。象徴的なのが、今回もお目にかかった44歳のキャメロン首相である。39歳で保守党党首となり、英国の議会制民主主義史上まれな第3党自由民主党との連立を構築した。2015年までの財政均衡を達成すべく、歳出削減に大鉈を振るい、付加価値税率を引き上げるといふ。日本の公的債務残高は国内総生産(GDP)の200%だが英国はわずか83%。3年前お



画・onyx

求心力もつ政治の構築を

この2週間で英国、韓国、マレーシア出張した。ロンドンでは日英21世紀委員会(日英の賢人会議)に委員として参加し、ソウルではソウル・デジタル・フォーラムという世界の未来を幅広く議論するフォーラム、そしてクアラルンプールではアジア・パシフィック・ラウンドテーブルという創立25周年のアジア・太平洋の安全保障を議論する有識者の会合に招待され、出席した。その間、日本に数日いたが、世界のダイナミックな鼓動と日本の停滞との大きなギャップに、戸惑いを覚えるだけでなく、悲しくなった。

英国は伝統の国である。翌日にオバマ米大統領を迎える準備だったのか、白馬にまたがり鮮やかな赤の礼服に身を包む儀仗兵のバッキンガム宮殿前での行進が印象的だった。英国は、伝統を守りつつ、絶えず新しい血を入れようとする。象徴的なのが、今回もお目にかかった44歳のキャメロン首相である。39歳で保守党党首となり、英国の議会制民主主義史上まれな第3党自由民主党との連立を構築した。2015年までの財政均衡を達成すべく、歳出削減に大鉈を振るい、付加価値税率を引き上げるといふ。日本の公的債務残高は国内総生産(GDP)の200%だが英国はわずか83%。3年前お

目にかかったときの若く経験の少ない保守党党首が、堂々とした英国首相に変貌していた。韓国は権威主義の国だ。しかし、近年ソウルを訪れるたびに、若い人々が巧みな英語を操り、生き生きと活躍する姿を見る。会議で受ける質問はすべて同じ。「震災で辛抱強く秩序ある行動に徹した日本人は感動的だが、

この国難になぜ政治はまとまらないのか。日本に政治的リーダーシップは期待できないのか?」日本を弁護し積極的に売り込む外交官の習性が抜けきらない私だが、言葉を失う。日本は大震災の故か、対外関係でも思考停止に陥ったかのようだ。援助は削減、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)は参加

判断延期、普天間問題はほぼ棚上げ、首相訪米も9月まで延期。その間、世界は大きく変動する。マレーシアの会議でもっとも語られる国は中国である。中国が大化し、米国中心の「西側民主主義」の影が薄くなる世界で、安定をどう担保するのか。東アジアで、日本の役割は大きいはずだ。しかし、今の日本の国内情勢を見れば、

多くは期待できない。これが、数百人の会議参加者が一様にもつ印象なのだろう。今からでも遅くはない。これから秋にかけて東アジアサミットやアジア太平洋経済協力会議(APEC)をはじめ、多くの外交舞台が白押しである。震災復興と財政再建や農業改革など長期的課題に道筋をつけ、外交も日米関係を再活性化させ、東アジアの構想に打って出ることには可能はずだ。このためには何をしなければならぬか。国民の多くにとって、答えは明確ではなからうか。何よりも、求心力をもって国家の課題に立ち向かえる政治体制の構築だ。菅直人首相の退陣表明がこの展望を開くことを望みたい。復興や財政再建、外交に与野党間のイデオロギーの差があるとは考えられない。一刻も早く、与野党が結集できる内閣が形成されることを切に望む。そのうえで官僚制度を最大限活用してほしい。官僚は税金で養われ、国家に奉仕すべき存在である。政治が官僚を信用せず、多数の民間人参与や会議を政策形成の中核に据えるならば、民主主義の根幹をなす法律が裏付けた制度下での統治責任はどうなるのか。国家統治の原点に立ち戻ってもらいたいと思う。(たなか・ひとし)日本総研国際戦略研究所理事長

*毎月第2水曜に掲載します